

第 23 回ジオパーク下仁田協議会(顛末)

日時 令和 4 年 7 月 25 日 (月) 午前 10 時～11 時 10 分
場所 下仁田町役場 201 会議室

- 1 開 会
- 2 委嘱状交付
- 3 会長挨拶
- 4 自己紹介
- 5 議 事

(1) 令和 3 年度ジオパーク事業活動報告及び各部会活動報告について (資料1) (説 明)

令和 3 年度は、新型コロナウイルスの関係で事業の中止が多くあった。4 月 4 日の青岩公園で行われた野外音楽イベント・ブルーロックヘブンにジオパークの PR 活動などを行った。4/24～12/19 に耳飾りの企画展を開催した。その他は、ご覧のとおりである。下仁田ジオパーク再認定審査が 11 月 5 日～7 日の 3 日間行われその結果、再認定となった。次回の審査は 4 年後となる。

学術部会は、学術奨励金事業の採択、下仁田ジオパークのテーマ・ストーリー検討、アクションプラン検討などを行った。学術奨励金事業は 2 件の研究が対象となっている。

教育部会は、再認定審査関係、アクションプラン検討である。メールなどで、書面上のやり取りも行った。

産業観光部会は、ステーマ・ストーリーの検討、アクションプランの検討、ジオパークブランド商品などの検討を行った。ジオパークブランド 4 件が登録され、現在 23 点がジオパークブランド認定商品となっている。今年度の 4 件は、次のページ 6 ページの 4 商品が新規認定となっている。

ガイド部会は、テーマ・ストーリーの検討、アクションプランの検討、ガイド養成講座・ガイド認定などが議論された。ジオパークガイドの認定では、養成講座を行い、4 名を新たにガイドに認定し、現在、ジオパーク認定ガイド 8 名となっている。

【質問等】

学術奨励金の町から補助額を教えてください。

【回答等】

予算は 10 万円で 1 件上限 20 万円の学術奨励金を助成している。

(2) 令和 3 年度収支決算及び会計監査報告について

(説 明)

収入の部は、ガイドツアー 2 組で 6,000 円である。資料代 3,000 円は、カラー印刷等の資料作成代である。繰越金 1,940 円を加えて合計 10,940 円である。

支出の部は、ガイド料 3,000 円の 9 割の 2,700 円がガイドさん分となるので 2,700 円×2 人で 5,400 円となる。収入決算額 10,940 円引く、支出決算額 5,400 円で次年度繰越金 5,540 円となる。

【質問等】

な し

(3) 令和4年度ジオパーク事業活動計画（案）及び各部会活動計画（案）について

（資料2）

（説明）

令和4年度ジオパーク事業活動計画（案）は、4月3日から、7月23日はすでに終了している。今後の主な事業のみ説明する。8月1日から自然史館で企画展を開催する。その他は、ジオの日清掃活動や10月21日から日本ジオパーク全国大会が石川県白山市で開催予定である。3月11日にジオパーク学術奨励金成果報告会開催予定となっている。

学術部会活動計画（案）は、保全全体方針について他のジオパークの計画も参考にしながら検討していく。学術奨励金事業は、令和4年度は7件の応募があり2件の候補者を推薦し、町が採択した。

教育部会活動計画（案）は、持続可能な地域学習の内容を検討する。令和4年度は小学校で、地域を学んだ児童がほかの地域のジオパークの児童たちと交流する取り組みを行う。地域住民向けの普及活動は、下仁田町役場入職の若年層を対象にしたジオパークの研修会を行うほか、商工会女性部の研修を行う。

産業観光部会活動計画（案）は、新たな屋外での体験活動として下仁田自然学校と連携し、川の生き物観察会を実施し、下仁田の川を活かした体験の受け入れ態勢を始める。ジオブランドの販路拡大としてJGN（日本ジオパークネットワーク）関東大会で下仁田ジオパークブランド認定商品を販売する。

ガイド部会活動計画（案）は、行事参加者にガイド養成講座を受講してもらうように呼び掛ける。JGN関東大会および全国大会に認定ガイドが参加し他地域のノウハウを共有し、スキルアップを図る。

【質問等】

商工会としては、町の経済を考えていかなければならない。しかしながら、観光でジオパークがまだ活かしきれていない。こういう目標を産業観光部会の活動計画にもいれていただきたい。また、観光協会や上信電鉄等を含めて、うまく考えてもらい、ジオパークで人を集めるような事はできないか。

観光協会では、ホームページのトップにジオパークをおいてジオパークの情報を閲覧できるように準備を進めている。今後も協力体制を築いていきたい。

個人的に思うが鏑川で砥石が人気である。鏑川はいろいろな石があるので、川の生き物観察会などの事業で石の説明をして指導していただき、子どもにも石を観察してもらったりして、アピールをすれば面白いと思う。

【回答等】

（協議会事務局）

5月に川原の石の観察会をした際には、県内外の子どもが参加し綺麗な石に感動していた。鏑川には色とりどりの石が沢山あるので、今後、石もセールスポイントとして宣伝していければよいと思う。

【質問等】

商工観光課とか観光協会が中心となってジオパークを町の観光素材として推進していくという考えをもっていただきたい。ジオパークを起爆剤として町に観光客がきてくれる事が目的であると思う。ぜひ、町の方でも力をいれていただければと思う。

商工会女性部は、町に来た方におもてなしをする為にジオパークの研修を積み重ねている。駅から降りた時に「ここは何って」聞かれた時に対応しておもてなしをしている。

商工観光課と関連が強いので、行政の方でも横断的な組織的で動くのがよいのではないか。また、荒船風穴やジオパークの代表的なみどころなどもライブカメラを付けてホームページで常に見られるようにしたらどうか。また、教育面においては、下仁田高校に専門学部・地質学部の設置ができないかと思う。

商工会としては事業の中にジオパークを取り入れている。主幹である協議会事務局(教育委員会内)だけでなく、課を横断するような組織が町の中に必要ではないか、ということを感じている。ぜひ、こうした部分を検討していただけると前進していけるのではないかと思う。

【回答等】

今、皆さんからも核心を突いたご意見をいただきましたので、前向きに検討していきたいと思う。ただ、問題は、役場の課の横断的な組織体制の問題である。非常に難しい問題ではあるが、根本的な体制を整えることも検討していきたい、ジオパークに人が呼び込めるように検討していきたいと思っている。

【質問等】

下仁田高校で新たな学科をつくるとか、コースの増設は、以前県の担当者にも話したことあるが、早々に取り組める状況ではないという回答をいただいている。県の方では、全県的な視点で今後、中学生以下の人口が急減しているので高校の統廃合を含めた中で下仁田高校の位置づけをどうするのかというところが議論になっている。

◎以上のような意見を参考に引き続き、各専門部会で検討することとし、令和4年度ジオパーク事業活動計画及び各部会活動計画は承認された。

(4) 令和4年度収支予算書(案)について

(説明)

収入は、ガイドさん・20回20人のガイドツアーを算出した。ガイド料3,000円×20人・60,000円で繰越金5,540円の合計65,540円である。支出は、ガイド料54,000円である。1回3,000円内9割の2,700円が、ガイドさん分であり、20回分で54,000円となる。需用費6,000円は、事務用品等である。繰越金5,540円・合計65,540円となる。

◎令和4年度収支予算書は承認された。

(5) 下仁田ジオパーク再認定審査指摘事項の回答(案)について

(説明)

2月に審査結果が出された際に、半年以内に今回の指摘事項をこれから、どのような改善していくかの計画書を日本ジオパーク委員会より指示が出された。そこで、各専門部会、協議会でも検討し、2022年4月からスタートしているアクションプラン(5か年計画)の中に指摘内容を改善できるように盛り込んだ。本回答書はその計画の中で指摘事項をどのように改善していくか、概要をまとめたものである。指摘事項は8つある。

1つ目、「パートナーシップ」である。「ジオパークと連携することをメリットと感じて関与している商店や事業者、個人、イベント関係者、研究者、行政機関とのパートナーシップを構築し、協定の締結をめざしてください。」という指摘が出された。この指摘に関して、「より一層、地域の団体や県などと連携しながら、ジオパーク推進を行います。」という回答をする。

2 つ目、「ジオパークの可視性」である。「再編されたテーマ・ストーリーをもとに、改めて下仁田ジオパークについて文書や図を使って概説し、可視化やガイドツアーの基礎となる情報を整備し、Web サイト、拠点施設での展示、実際のツアーやパンフレット、看板類などへ反映していただきたい。」という指摘が出されている。この指摘について、「新しくできたテーマ・ストーリーを活用し、ジオパークをわかりやすく発信し、来場者により一層下仁田の魅力を伝えられるようにしていく。」という回答文になっている。

次に「施設・インフラ整備」についてである。「拠点施設である下仁田町自然史館には、ジオパークや地質のことを知らない人にも関心を持ってもらえるようなわかりやすいガイド機能が必要である。」という指摘が出されている。この指摘について、「拠点施設の下仁田町自然史館やガイド施設の道の駅しもにたなどで、新しいテーマ・ストーリーを来訪者に伝えられるような展示を検討していきます。」という回答文になっている。

「地質資源以外の活用」について、「生態系や無形文化遺産についての専門家との協力体制の構築が必要である。特に、荒船風穴とその周辺には、地質学的・生態学的な価値が認められるため、それを踏まえた管理・活用を行っていただきたい。」という指摘が出されている。この指摘について、「生物分野・伝統文化の専門家などと協力しながらより一層下仁田の価値を深め、またその価値をガイドからお客さんに伝わるようにすすめていく。」という回答文となっている。

次に、「事務局体制」について、「生態系や無形文化遺産についての専門家との協力体制の構築が必要である。特に荒船風穴とその周辺には、地質学的・生態学的な価値が認められるため、それを踏まえた管理・活用を行ってください。」という指摘が出されている。この指摘について、「限られた町職員の定数の中で正職員を増員することは困難な現状であり、より一層持続可能なジオパーク運営をしていくためにも行政内や他団体との連携を強化しつつ、組織体制を検討していきます。」という回答文となっている。

次に、「道の駅での化石や鉱物の販売」「ジオパーク全体の保全計画」について、「ジオパークエリア全体の保全計画を策定してください。また地質遺産の販売については、レプリカの販売、ジオパーク関連商品など代替案を考えながら鉱物販売がなされないよう協議を進めてください。」という指摘が出されている。この指摘について、「学識経験者と相談をしながら保全の計画を作っていくこと、また地質遺産の販売については全国のジオパークでの実践例を参考にしながら解決策を模索していきます。」という回答文となっている。

最後に「マーケティング調査に基づく、ジオツーリズムによる経済波及及びマーケティング調査に基づき、戦略的にジオツーリズムによる経済への波及を進めてください。」という指摘が出されている。この指摘について、「観光協会と連携しながら来訪者のニーズにあったジオツアーを売り込むようにしていく。」という回答文となっている。

以上のような回答を協議会全体で協議し、8月末までに日本ジオパーク委員会に提出したいと考えている。協議のほどよろしくお願ひしたい。

【質問等】

観光協会のウェブサイトでの情報発信は2番目の指摘事項「ジオパークの可視性」にまさにあたるものでもあり、産業観光部会の方にもお話しさせていただき準備を進めているところである。

一番最後の「マーケティング調査に基づくジオツーリズムの経済波及」の点に関して、観光案内所のこと記載されている件について、この辺の情報を整理するために高崎商科大学に出向いてお話をさせていただいている。下仁田町と観光協定を結んでいると記載されているが、その点に関して、大学から窓口を一本化してほしいという意見をいた

だいている。4月から観光客の動向調査を積極的に行っている。こうしたものと、大学で行うアンケート解析結果は、町の商工観光課にいており、情報の共有がうまくできない可能性がある。こうした状況を踏まえて今後も観光連携協定の提携先は町でいいものか、大学との流れを1本化した方がいいのではないかという状況である。その辺を踏まえて回答書についても記載されてはどうか。

【回答等】

(協議会事務局)

ご意見にありました観光協会のホームページについては、まだどこまで公開できる話か不明な部分もあったので回答書に記載はしなかったが、現在の状況で観光協会ウェブサイトにも3つのストーリーに沿った紹介がなされているという記述を加える。

【質問等】

ウェブサイトについては以前から観光協会が発信するというお約束もあったかと思うので、ぜひ回答書に入れていただければと思う。

◎包括連携協定の記載内容については、再度検討する。他の指摘事項の回答は、承認され、JGC（日本ジオパーク委員会）に回答書を提出させていただきたい。

【その他 意見】

ジオパークのカードについて、ダムカードなど人気があるので、下仁田町に来なければ手に入れることができないカードを作れば集客効果につながるのではないか。

(協議会事務局)

ジオカードを以前は作っていたが、3年前に在庫がなくなって以降配布をしていない。今後、また、検討してみたいと思う。

6 報 告

- (1) 下仁田ジオパーク総合パンフレットの補足解説書について
- (2) 下仁田ジオパークのアクションプラン（2022～2026）について

(協議会事務局)

- (1)・(2) は、後で、ご覧下さい。

群馬県信協組合広報誌「Shin」に下仁田ジオパークが掲載された。

自然史館企画展が8/1から翌年6/30まで開催。内容が兜岩から見つかったカエル・ホタル化石である。

7 そ の 他

8 閉 会